

4. 火災の実態

1 火災の概要

平成29年中の火災は、出火件数1,998件、損害額3,730,210千円、死者数79人、建物焼損床面積44,623㎡、建物焼損表面積3,014㎡、林野焼損面積626a、焼損棟数1,353棟、り災世帯数779世帯、り災人員1,708人となった。前年と比較した火災の状況は次のとおりである。

なお、平成29年中の火災の発生を一日当たりで見ると、出火件数約5.5件、損害額約10,220千円、死者数約0.2人、建物焼損床面積約122.3㎡、建物焼損表面積約8.3㎡、林野焼損面積約1.7a、焼損棟数約3.7棟、り災世帯数約2.1世帯、り災人員約4.7人である。

区 分	平成29年 ①	平成28年 ②	対前年増減数 ③ = ① - ②	増減率
				$\frac{③}{②} \times 100$ (%)
出火件数	1,998	1,742	256	14.7
建物火災	925	927	-2	-0.2
林野火災	95	40	55	137.5
車両火災	167	164	3	1.8
船舶火災	4	3	1	33.3
航空機火災	0	0	—	—
その他火災	807	608	199	32.7
焼損棟数	1,353	1,313	40	3.0
り災世帯数	779	773	6	0.8
り災人員(人)	1,708	1,742	-34	-2.0
焼損面積				
建物床面積(㎡)	44,623	32,982	11,641	35.3
建物表面積(㎡)	3,014	2,997	17	0.6
林野(a)	626	204	422	206.9
損害額(千円)	3,730,210	2,907,350	822,860	28.3
建物火災	3,454,338	2,385,204	1,069,134	44.8
林野火災	2026	407	1619	397.8
車両火災	116,731	88,205	28,526	32.3
船舶火災	683	70,000	-69,317	-99.0
航空機火災	0	0	0	—
その他火災	155,582	361,854	-206,272	-57.0
爆発火災	850	1,680	-830	-49.4
死者(人)	79	66	13	19.7
負傷者(人)	266	274	-8	-2.9

(注) ア 建物火災とは、建物又はその収容物が焼損した火災をいう。

イ 林野火災とは、森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。

ウ 車両火災とは、原動機によって運行することができる車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災をいう。

- エ 船舶火災とは、船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。
- オ 航空機火災とは、航空機又はその積載物が焼損した火災をいう。
- カ その他の火災とは、アからオまでに掲げる火災以外の火災をいう。

2 出火件数

(1) 総出火件数は、1,998件で前年と比べて256件増加している。これを火災種別で見ると、次のとおりである。

種別 年	総出火件数	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他
平成29年	1,998件 (100.0%)	925件 (46.3%)	95件 (4.7%)	167件 (8.4%)	4件 (0.2%)	0件 (0.0%)	807件 (40.4%)
平成28年	1,742件 (100.0%)	927件 (53.2%)	40件 (2.3%)	164件 (9.4%)	3件 (0.2%)	0件 (0.0%)	608件 (34.9%)

(2) 月別出火件数

月別出火件数は、次のとおりである。火災は、12月から3月にかけて多く発生する傾向がある。

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
出火件数	247	281	186	144	148	159	145	112	115	96	125	240	1,998

(3) 出火率

出火率（人口1万人当たりの出火件数）は、県平均約3.18件となっている。

3 損害額

火災による損害額は3,730,210千円で、前年比822,860千円（28.3%）増加した。また、1日当たりでは約10,220千円（前年約7,965千円）、1件当たりでは約1,867千円（前年約1,669千円）となっている。

4 出火原因

出火原因別火災発生件数は、次のとおりである。例年と比べ、たき火の件数が大きく増加している。

総出火件数	放火・放火の疑い	たばこ	こんろ	たき火	火遊び	その他
1,998件 (100.0%)	402件 (20.1%)	208件 (10.4%)	118件 (5.9%)	168件 (8.4%)	35件 (1.8%)	1067件 (53.4%)

※その他には、上記以外の出火原因21区分及び不明・調査中を含む

5 死傷者の実態

(1) 死傷者数

火災による死者は79人、負傷者は266人で、前年に比べて死者は13人増加（前年比19.7%）し、負傷者は8人減少（前年比2.9%減）した。

(2) 火災種別にみる死傷者数

火災種別ごとの死傷者発生状況は、次のとおりである。

火災種別	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	合計
死者数	58 (73.4%)	2 (2.5%)	6 (7.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (16.5%)	79 (100.0%)
負傷者数	231 (86.9%)	4 (1.5%)	7 (2.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	24 (9.0%)	266 (100.0%)

(3) 月別の死傷者数

月別死傷者数は、次のとおりである。死傷者は、12月から3月にかけて多く発生する傾向がある。

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
死者数	10	9	8	12	5	9	1	2	5	1	9	8	79
負傷者数	44	31	31	16	12	18	22	20	13	19	12	28	266

(4) 年齢層別の死者数

年齢層別死者数は次のとおりであり、61歳以上が全体の7割以上を占めている。

区分	0歳～ 20歳	21歳～ 30歳	31歳～ 40歳	41歳～ 50歳	51歳～ 60歳	61歳～ 70歳	71歳 以上	不明	合計
死者数	1 1.3%	1 1.3%	3 3.8%	5 6.3%	11 13.9%	17 21.5%	39 49.4%	2 2.5%	79 100.0%

(5) 死因別死者数

死因別死者数は次のとおりであり、死者は、一酸化炭素中毒・窒息で多く死亡している。

区分	一酸化炭素 中毒・窒息	火傷	打撲・骨折等	自殺	その他・不明	合計
死者数	20 25.3%	19 24.1%	0 0.0%	18 22.8%	22 27.8%	79 100.0%